

## 第3回 “ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会” 議事要旨

---

### 【開催日時】

平成 20 年 6 月 27 日 ( 金 ) 14:00 ~ 16 : 00

### 【開催場所】

知和ウェットランド 知和管理棟

### 【出席者】

敬称略

委員長	中越 信和	広島大学国際環境協力プロジェクト研究センター長 教授
委員	立石 雅哉	仁賀振興会 会長
委員	上垣 良三	安田自治振興会 会長
委員	今井 秀明	のぞみが丘運営協議会 会長
委員	和田 芳治	木屋地区自治振興区 区長
委員	山根 京司	稲草西自治振興区 区長
委員	前川 俊清	県立広島大学 生命環境学部 准教授
委員	金沢 成三	比婆科学教育振興会 会長
委員	岩水 正志	灰塚ダム知和ウェットランド フレントリ館 館長
委員	熊原 保	社会福祉法人総領福社会 理事長
委員	湧田 法恵	三次市 三良坂支所長
委員	淀 弘之	三次市 吉舎支所長
委員(代理)	春田 正治(宗兼角夫)	庄原市 総領支所長(地域振興室長)
委員	島田 淳次	国土交通省 中国地方整備局 三次河川国道事務所 所長

オブザーバー 三谷 潔 広島県備北地域事務所 総務部 企画調整室

**【議事次第】**

- 1．開会
- 2．開会あいさつ
- 3．自己紹介
- 4．第2回委員会議事要旨の確認
- 5．基本方針（試行版）及びパブリックコメントの概要報告
- 6．H20年度の取り組みについて
- 7．ハイツカ湖で実施された催しもの等について
- 8．本年度の今後の予定について
- 9．その他
- 10．閉会あいさつ
- 11．閉会

**【説明資料】**

- 資料-1 第3回ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会 次第
- 資料-2 第2回ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会 議事要旨
- 資料-3 ハイツカ湖地域ビジョン基本方針（試行版）
- 資料-4 基本方針（試行版）に対するご意見の概要
- 資料-5 ハイツカ湖地域ビジョン H20年度の取り組み（案）
- 資料-6 ハイツカ湖で実施された催しもの等
- 資料-7 本年度の今後の予定（案）

## 【議事要旨】

### (1)委員の交代について

- ・安田自治振興会 多留会長に代わり、上垣会長が就任。
- ・三次市吉舎支所 久保田支所長に代わり、淀支所長が就任。
- ・庄原市総領支所 永田支所長に代わり、春田支所長が就任。

### (2)中越委員長からの情報提供

- ・土師ダムの水質保全に関する情報発信等、地元の活動事例について。
- ・世界の水環境の不均衡について。

### (3)第2回委員会議事要旨の確認

- ・第2回委員会議事要旨について、事務局から概要説明。  
公表について承認された。

### (4)基本方針（試行版）及びそれに対するご意見の概要報告

- ・基本方針（試行版）の概要と、基本方針（試行版）についてこれまでに寄せられたパブリックコメントの概要と対応案について事務局から概要説明。

### (5)パブリックコメントについての意見交換

- ・いずれの分科会での活動も、今のところビジネスモデルがみえない。活動を継続させていくためには経済的な面も考える必要がある。
- ・ハイヅカ湖周辺地区は安定兼業で生きてきた町であり、収入を得る手段を持ってはじめて家も自然も地域も守れるのではないか。三次市矢田の福祉団地構想が頓挫した三次市などが所有されている土地があり、福祉施設の開発を進め、地方再生のモデル地区としての活用ができないものか。
- ・常々のことではあるが、今回の地域ビジョンも地域の文化活動といった程度で、いつの間にか基本方針ができてパンフレットができて、予算が切れたら終わりという形になってしまうことが危惧される。
- ・ダム管理者は立場上、水をきれいにする努力が必要となる。地域住民は地域自体を守らねばならない。ダム管理者が地域の経済基盤そのものを作る事業を行うことは難しいと思うので、水をきれいにするというダム管理と地域活性化をどう結びつけるかについても、このビジョンで考えれば良いのではないか。福祉についても、ダム管理に役立つ部分があれば連携が可能かもしれない。

- ・福祉に関連する補助制度として、国土交通省には、高齢者優良賃貸住宅制度というものがあったように記憶している。調べてみてはいかがか。水を守る、環境を守る、有機農法を行う、困っている方々の福祉を行うといった活動をと組み合わせたら良いのではないか。
- ・パブリックコメント No.5 に「この地域は、農業だけでは食べて行けず・・・」という記述があるが、誤解を招くため、表現の変更を求める。
- ・現在5つの分科会があるが、下流側の住民は、ダムができた後に上下川の水が汚れてきたため、分科会に全く関心を持たない。水をきれいにするという大きな目的がないと、地域がまとまらない。最近では川の水温が上昇したため泡が発生し、ダムについての批判的意見が多くなり、ビジョンどころの話ではないという雰囲気。現実をふまえて議論をしないと、ダムの上流ばかりの話になり、下流は誰もついてこない。
- ・水温上昇と水量の減少等の気象条件が重なり、糖質を原因とする泡立ちが生じている。また、上流域である上下川の水質は下流よりも水質が圧倒的に悪い状況にある。ダム管理者としては、ばっ気や比較的水質の良い層から取水して下流へ流す等の対策により最大限の努力を行っているところである。第3分科会で先立って提案し、現在、水質浄化と活性化を目的とした空心菜の栽培実験を開始した。引き続き努力をしてまいりたい。
- ・上流の吉舎では、上下川の水質をどうやって良くするかを吉舎町、総領町、上下町を含めここ20年間、努力している。人口の多い上下川流域が源流で、水量も少ないことから、田総川に比べれば水質が悪くなっている。これらを状況も踏まえた上でダムが作られている。そういった中で上流は水質への取り組みを続けてきた経緯があるので、これ以上の努力を地域に求められても対応が難しい。
- ・現在の分科会に、水質に関するものが全くない。第2、第6分科会等での活動テーマの一つに加えるべきであろう。
- ・地域の方々がビジョンづくりにどう関わっていくかを検討したい。事実を今以上に知っていただくことが大切であるし、地域の方々の思いが詰まったビジョンにしなければ、一部の人のためのビジョンでは誰もついてこないのではと感じる。そのため、ビジョンのテーマは広くとっておいて、いろいろな人が入ってこられるような受け皿を整えておきたい。
- ・水をきれいにするというのは、誰の為にするのかということが問題だ。下流の為にする、もしくはダム管理者の為にするというだけでは続かない。

- ・ハイヅカ湖地域ビジョンでは水質保全より、経済活性化を中心に考えた方が良いという対立した意見があるように見えるが、きれいな水は地域活性化に必要だという視点で捉え、みんなが協力し合うようにしたい。
- ・浄化槽で脱窒素はできるが、リンを回収することは難しい。リンは肥料に使えるし、いずれ世界的にリンの鉱石は不足する可能性があるので、リン回収方策は検討の余地がある。
- ・ダム上流の方が負荷が高い状態が続くのであれば、ダムは浄化装置になり得るという見方もある。

#### (6)平成 20 年度の取り組みについて

- ・平成 19 年度の取り組みと、平成 20 年度の取り組み案について、事務局から概要説明。

#### (7)平成 20 年度の取り組みについての意見交換

- ・プロジェクトを実際に行う際には、より多くの人々の参加を募るべきではないか？  
事務局：分科会で取り組みを決定し、試行していく段階では、より多くの参加を促すために WEB サイトやチラシ、呼びかけ等で広く進めていく。実際にうまくいくかどうか分からない取り組みなどは、議論だけ行うのではなく、場合によっては試験的に行っていくものも出てくるかもしれない。
- ・リーディングプロジェクトにも、多くの人に関われるシステムも考えたい。実際にやってみるといふ活動はこれまでにない方式だが、歓迎する。
- ・リーディングプロジェクトについての採用不採用の基準を明確にするべきだと思う。
- ・平成 21 年 3 月にビジョン公表の予定だが、誰が誰に向けて公表して、それが何になるのか。また、実行予算等はどうなるのか。

事務局：ダム管理支所は事務局としても動いているが、ダム管理者はビジョンに参画する一つの実行者という立場でもある。国がつくる計画に住民が参画していただくのでは無く、ダム湖を活かした地域全体の活性化策を実行しようとする者が協力してビジョンを取りまとめ、実行者がそれぞれ活性化策を進めていこうというものである。ダム湖を活かすという形での活性化策は、ダム管理者として推進したいが、ビジョンに示される方策すべてを、我々が主体になり進めるものではない。分科会で決定されたものについては、事務局として手伝っていく。また、内容によっては実行者の一人として積極的に参加していく。なお、ビジョンにはなじまないが、ダム管理支所として取り組む必要のあるものは、ビジョンの枠組みとは別に、直接連絡調整をすることとなる。

- ・住民の最大の関心である地域運営には、実際は市が大きく関わらないと動かないものが多い。地域づくりの部署もあるので積極的に参加して欲しい。

事務局：広く関連する方々に参画いただけるよう呼びかけを努力していきたい。

#### (8)第3、6分科会からの提案及びその他の催し物、今後の予定等の紹介

- ・自然観察ガイド養成講座、草レチック大会、「抱きしめてハイヅカ湖」夢実現コンサート等の催し物について、事務局から概要報告。
- ・第3分科会の「空心菜試食会」、第6分科会の「プロジェクトWET講習会」について、事務局から概要報告。
- ・本年度の今後の予定（案）を事務局から概要説明。

#### (9)その他の意見

- ・ウェットランドを活用した環境教育を進めたいが、指導者がいないことが一番の問題である。プログラムを充実させたり、より広域へ向けた教育活動を行うなど、地域でも努力していく必要がある。
- ・下流側で窒素、リンの濃度は減っているのは間違いないが、体感とのギャップがあり、流速や水量等の物理性の面も考慮しなければならない。
- ・第5回分科会で冬のリーディングプロジェクトを企画するには時期が遅い気がする。
- ・ハイヅカ湖やなかつくに公園、ダム記念公園などの地名が、Yahoo!の地図やGoogle mapに掲載されておらず、場所を説明するのに困る。まずは地図に掲載してもらうことが必要だ。
- ・ハイヅカ湖、灰塚ダムを象徴する言葉としての「笑湖」は、良い。
- ・第3、5分科会や第2、6分科会を合同させるかどうかは分科会での議論ということになったが、くっつけるとくっつけないとかいう話ではなく、しばらくは一緒に活動しようという姿勢で良いのではないか。プロジェクトが進むうちに、分科会が集約されるか否かは自ずと決まってくると思う。
- ・委員会やビジョンで天然記念物を指定しても良いのではないか。
- ・ハイヅカ湖地域の自然環境に関する情報は、フレントリ館の岩水館長のところへ集約させるのが良い。

- ・ハイヅカ湖健康マラソンなどのイベントが既にあるが、ビジョンの動きとはリンクしていない。もう少し協力し合うべきではないか。

事務局：事務局として、既存の取り組みについても連携を推進するための呼びかけをより積極的に行っていきたい。

- ・本年度は、リーディングプロジェクトをできるだけやってみて、ビジョン策定に繋げたい。

以上